

コーパスを利用した類義語のコロケーション分析 —擬態語「しみり、しみじみ」と動詞の共起から—

部 楓

1. はじめに

本稿は類義語研究におけるコーパスを利用したコロケーション分析について論じるものである。考察にあたっては擬態語「しみり、しみじみ」を対象にして、コーパスによる動詞との共起情報を中心に分析を行う。その結果、2語は「する」、「発言」に関する動詞と共起しやすい点で類似する一方、「しみじみ」が心理動詞、プラスイメージの事柄に用いる動詞と共起しやすい点で「しみり」との相違が見られた。

「しみり、しみじみ」は意味的には物事をはかなく感じたり、心に染み込んだりするという人間の心理状態を表す点で語共通する。しかし、(1)と(2)のように、言い換えられる場合もあれば、言い換えられない場合もある。

- (1) その枝川親方が「怖かったけど、温かみのあるオヤジさんだった」としみり(しみじみ)¹ 話した。

(『中日新聞』 2000/05/24)

- (2) そのエッセーからは「からす」を心に描き出した足立さんの喜びがしみじみ(*しみり)伝わる。

(『中日新聞』 2000/01/19)

本研究では、コーパスから抽出した動詞の共起情報に基づいて2語のコロケーションの違いを指摘する。

¹ 括弧内は2語を比較するために筆者が加えたものである。以下、同様。なお、本稿で取り扱った例文は、すべて日本語母語話者によるネイティブチェックを受けている。

2. 研究方法

本稿では、個人差が少なく自然に産出された表現を幅広く得るために、コーパスを用いて、コロケーションや興味深い例文を見ることによってなんらかの規則性を見出す。利用するコーパスはCD-ROM中日新聞記事データ(1999年～2003年分)²(以下、『中日新聞』と呼ぶ)である。『中日新聞』は社会、文化、経済などさまざまな内容の用例が得られる。しかも、人手で条件設定によってコロケーションを得ることが出来るのが最も重要な利点である。従って、今回は主に『中日新聞』から得たコロケーション情報の基で分析を行う。

分析にあたっては、『中日新聞』による2語を含む例文と「しんみり、しみじみ」の直後に出現した動詞の情報を抽出した。³ それと同時に、日本語母語話者にアンケート調査も実施した。⁴ このように、コーパスデータに加え、ネイティブ判断調査の結果も適宜考慮し、総合的にデータ分析を行う。

3. 先行研究

「しんみり、しみじみ」の2語の意味については、言葉遣いが多少違うものの、「深い感慨を持つ」という点で一般辞書⁵の間に大差はない。しかし、(3)の場合、「しみじみ」は自然に使えるが、「しんみり」は不自然である。このような点については、従来の辞書の意味記述では説明できない。

² 本稿で利用するコーパスファイルは株式会社中日新聞社と名古屋大学大学院国際言語文化研究科及び国際開発研究科国際コミュニケーション専攻の間で使用許諾契約を締結したものである。

³ 『中日新聞』に対しては、LINUX 操作環境上で grep コマンドとテキスト処理ツール Perl を利用して例文及び対象言語要素の直後に出現した動詞を抽出した。具体的な抽出方法は滝沢(2004)を参照されたい。なお、「しんみり、しみじみ」が直接修飾していない動詞もデータに混在している可能性もある。なお、形態素解析には『茶筌』を利用している。

⁴ この調査は二回にわたって実施した。一回目は日本人 15 名を対象に、コーパスから抽出した事例について、穴埋め形式の問いを立て、「しんみり」と「しみじみ」の容認度を調査した。なお、容認度を評価するには、○、△、×のように三段階に分けて判断してもらった。二回目は文脈なしで単なる 58 の動詞と共起できるかどうかを、共起できるものに○、できないものに×という形で日本人 10 名を対象に調査した。なお、今回は助詞「と」の有無は検討対象外であるため、調査項目はすべて「しんみり(しみじみ)+動詞辞書形」のようにした。

⁵ 『広辞苑』(第五版)や『国語大辞典』(初版)、『新明解国語辞典』(第六版)など

- (3) サルの牙(きば)に例えられる炊きたての新米のご飯。それだけで、おかずが要らないくらいおいしい。が、それに加えて秋ナスの漬物とくれば、もういうことなし。日本人に生まれた幸せを、しみじみ(？しんみり)とかみしめる。

(『中日新聞』 2001/10/06)

また、飛田他(2002:216)では、「しんみり」と「しみじみ」の違いについて、「「しみじみ」は懐かしさの暗示はあるが、それほど切実ではなく、「しんみり」より寂寥・悲哀の暗示は少ない」と記述されている。しかし、懐かしさの暗示が切実か否か、寂寥・悲哀の暗示が少ないか否かは判断しにくいと思われる。そこで、10人の日本語母語話者を対象に、(4)、(5)において「しんみり」と「しみじみ」のどちらが懐かしさの暗示がより切実かを判断してもらった。その結果、例文(4)に対して「しんみり」と答えた人は2人、「しみじみ」と答えた人は8人であった。この結果は飛田他(2002)の記述に反している。

- (4) 伸一さんは「球場がとにかく大好きだった。“練習日などには、フェンス越しに選手へポップコーンを売った”とか“シャツにサインしてもらった”とか、いつもうれしそうに話していた」と、生前の元気な姿をしんみり(しみじみ)と振り返った。

(『中日新聞』 1999/03/07)

- (5) 兄のいとしさんが九月に七十八歳で亡くなり、「いとし・こいしは>一代限り」と、漫才を引退したこいしさん。だが、不思議と漫才を見る機会は増えたという。「人の漫才を見ていると、うらやましい。(いとしさんが)生きてたら、漫才やられてたのになあ」。しみじみ(しんみり)と寂しげに話した。

(『中日新聞』 2003/12/25)

4. コーパスデータ

「しんみり、しみじみ」を比較するにあたって、『中日新聞』から抽出した共起動詞を頻度の高い順に表1にまとめた。表1における共起動詞は、同一文内(「。」で終わる文)で「しんみり、しみじみ」の後方に出現する動詞のことを指す(例: 姉さんはしみじみと泣いている。)。なお、本稿で用いるコーパスによる2語の共起動詞はすべて辞書形で提示している。また、共起頻度は、ある動詞が同一文内で対象言語要素(「しんみり、しみじみ」)と共起する回数のことを指し、比率は総出現数に占める割合を指す。

表1 『中日新聞』による2語の動詞共起表

| しんみり | | | しみじみ | | |
|------|-------|------|------|-------|------|
| 順位 | 共起動詞 | 共起頻度 | 順位 | 共起動詞 | 共起頻度 |
| 1 | する | 27 | 1 | 話す | 106 |
| 2 | 話す | 16 | 2 | 語る | 96 |
| 3 | 語る | 11 | 3 | する | 45 |
| 4 | 言う | 2 | 4 | 思う | 37 |
| 〃 | 聞く | 2 | 5 | 言う | 36 |
| 〃 | 振り返る | 2 | 6 | 感じる | 34 |
| 7 | 打ち明ける | 1 | 〃 | 振り返る | 34 |
| 〃 | 訴える | 1 | 8 | 見る | 10 |
| 〃 | 描く | 1 | 9 | 伝わる | 7 |
| 〃 | 語りかける | 1 | 10 | かみしめる | 5 |
| 〃 | 語り合う | 1 | 〃 | 実感する | 5 |
| 〃 | 頑張る | 1 | 12 | 歌う | 4 |
| 〃 | 聞き入る | 1 | 13 | 思い出す | 3 |
| 〃 | 座る | 1 | 〃 | つぶやく | 3 |
| 〃 | なる | 1 | 〃 | 述べる | 3 |
| 〃 | 述べる | 1 | 〃 | 見つめ | 3 |

* 総件数は「しんみり」計127件、「しみじみ」計593件。

* 「しみじみ」と共起する17位以下の共起動詞は以下の通りである。

表現する、わかる、言い残す、落ちる、歌い上げる、描く、醸す、考える、聴く、酌み交わす、くる、感心する、感謝する、婚約する、去来する、見上げる、漕ぐ、染みる、続ける、つむぐ、強める、できる、眺める、嘆く、始まる、響く、触れ合う、見る、見せる、やる、わく(各1回)

* 共起頻度の同じ動詞は五十音図順に並べである。

5. 類似点の考察

5-1. 「する」との共起

田守(1999:56)に記述されているように、「いらいら、わくわく」のような擬情語は「-する」動詞への組入れが可能である。コーパス実例を見ると、(6)、(7)のように、「しんみり・しみじみ+(と)する」は連体修飾語となり、「表情・口調・様子」のような人間の様態に関する名詞を修飾し、主体の悲しい・寂しい・懐かしい気持ちを表している。また、ネイティ

ブ判断調査によると、2語とも「する」と共起できる割合はほぼ100%であるうえで、下記の例において、2語は置き換え可能な傾向も示した。

- (6) この夜、三人は口々に「もう最後か」「寂しくなるね」と、しみり(しみじみ)した様子で水害後の思い出をボランティアらと語り合った。

(『中日新聞』 2000/12/17)

- (7) 三谷がしみじみ(しみり)とした口調で言葉を添えた。「長島君にとって僕はあこがれの選手だったんだそうです。その彼に引導を渡されたのも、勝負に生きる男の宿命なのかもしれませんね」

(『中日新聞』 1999/01/22)

しかし、(8)のように、「しみり(と)する」が述語になる実例は見つかったものの、「しみじみ(と)する」は見つからなかった。

- (8) また、都竹さんとは遠縁にあたる小坂町の中島俊行助役は「故郷での最後の個展だと言っていました、こんなに早くお亡くなりになるとは。個展でバラの絵を買いましたが、形見になってしまいました」としみりしていた。

(『中日新聞』 2003/06/04)

5-2. 「発言」に関する動詞との共起

表1を見ると、2語の後方文脈に出現しやすい動詞の中で、上位に上がっているのは「語る・言う・話す」など「発言」に関する動詞である(9)、(10)。これらの発言動詞は一見人間の気持ちとは関係ないように思われるが、実際は主体が発言する際に、「嬉しく語る、悲しく語る、冷静に語る・・・」のように、必ず主体の心で一種の気持ちが伴っていると考えられる。「しみり、しみじみ」は寂寥感・悲哀感・懐旧感を表しやすいため、これらの発言動詞と自然に共起している。(9)、(10)における「しみり(しみじみ)語る」は「しみり(しみじみ)とした気持ちで話した」というふう解釈でき、2語の置換も容認できる。

- (9) 理髪の日には床掃除などを決まって手伝っていた入所者の三木秀夫さん(79)は「ええ人で話しやすかった。本当に寂しくなる」と、しみり(しみじみ)語った。

(『中日新聞』 2002/06/24)

- (10) 小林さんは「交信は貴重な思い出。身分は違いすぎるが葬儀に参列してお悔やみを述べたかった。自分と比べるのはおこがましいが同じようがんになり、

部 楓

国王は逝ってしまわれ、私は幸か不幸か生きながらえている」と、QSLカードを手にしみじみ(しんみり)語る。

(『中日新聞』 1999/02/10)

「しんみり、しみじみ」と「言う、語る、話す」の共起について、ほぼ100%容認できるというネイティブ判断調査の結果からも窺える。しかし、2語が修飾する動詞は同じであっても、表現するニュアンスは異なる(詳しくは「6.相違点の考察」を参照)。

6. 相違点の考察

6-1. 心理動詞⁶ との共起

「しみじみ」は(11)のように、心理動詞「思う、感じる」との共起数も上位5位に入っている。このほかに、「考える、実感する」などの心理動詞との共起も目立つ。一方、『中日新聞』のデータには「しんみり」とこれらの心理動詞との共起例は見られない。

- (11) 戦後の時代が終わり、新しい展開の時代に入った。特に四十代、五十代が主力となった日本を、二十一世紀に向かって前進させてもらう時が来たとしみじみ思う。

(『中日新聞』 2000/06/19)

そこで、「思う、感じる」と共起できるかをネイティブ判断調査した。その結果、2語の差はほとんど見られなかった。心理動詞には心理状態を表す語が伴いやすい点を考えると、確かに「しんみり」も心理動詞と共起できると予想される。しかし、下記の(12)、(13)で見られるように、「しんみり」は「かみしめる、考える」とは共起しにくい。

- (12) サルの牙(きば)に例えられる炊きたての新米のご飯。それだけで、おかずが要らないくらいおいしい。が、それに加えて秋ナスの漬物とくれば、もういうことなし。日本人に生まれた幸せを、しみじみ(？しんみり)とかみしめる。

(『中日新聞』 2001/10/06)

- (13) 地球の反対側にも、四季への強いあこがれがある。環境を守るということは、季

⁶ 本稿で取り上げる心理動詞は、工藤(1995:70)に記述されている内的運動動詞の定義に従う。(内的運動動詞:<思考・感情・知覚・感覚>という人間の内的事象を捕らえている動詞である。例:考える、後悔する、諦める)

節を大事にすることなんだと、その時しみじみ(？しんみり)考えました。

(『中日新聞』 2002/11/17)

文脈なしで心理動詞「かみしめる、考える」と「しんみり、しみじみ」の共起について実施したネイティブ判断調査の結果から2語の差が見られなかったが、文脈ありの(12)のネイティブ判断調査の結果は、「しみじみかみしめる」に対しては15人のうち14人も容認できる一方、「しんみりかみしめる」に対してはわずか3人であった。「かみしめる」は「これまでの体験を照らして事の趣を深く考える」のような懐旧の意を含んでいることから、「しみじみ」はこのような懐旧の意を表す動詞と共起しやすいのではないかと考えられる。そこで、「かみしめる」のほかに、さらに「過ぎ去ったことを再び思う」を表す心理動詞「思い返す、思い出す、振り返る」の3語との共起についても調べた。その結果、「しみじみ」は3つの動詞との共起についてはほぼ100%容認できるのに対し、「しんみり」は平均60%に留まっている。これより、「しんみり」より「しみじみ」のほうが懐旧を表す動詞と共起しやすいことが明らかとなった。

(13)においても2語が置き換えられない傾向がある。人間の主観的な意志が働かない心理動詞の場合においては、「しんみり」と「しみじみ」の両方とも共起できる。しかし、「考える」は「考えようとしている主体の主観的な意図を持って物事を吟味・思考する」点で、「何かの刺激を受けて自然に心で感覚を起こす」を表す「思う、感じる」と異なる。このように、人間の意図性が深い動詞のある文脈では「しんみり」は用いられにくい。

以上の結果に基づいて「しんみり、しみじみ」と心理動詞の共起について考えると、「しんみり」は人間の主観性・意図性の低い心理動詞ほど共起しやすいが、「しみじみ」はこのような制限がなく、「しんみり」より心理動詞との共起関係が強い。それに、「しんみり」と比べると、懐旧の意を表す動詞とも共起しやすい。

6-2. 「座る」と共起する「しんみり」

『中日新聞』の実例には、人間の具体的な行為を表す「座る」と共起する(14)があった。単なる動詞「座る」と共起できるかの調査では、「しんみり、しみじみ」の2語とも共起できない傾向を示したが、具体例(14)に置かれると、「しんみり」は80%容認できるのに対し、「しみじみ」は0%であった。以下、この例を中心に「しんみり」と「しみじみ」の相違点について述べる。

(14) 田中知事は閉会后、部局長会議を開催。しんみり(*しみじみ)と座る約二十五

部 楓

人の県幹部を前に「判断を厳粛に受け止める。開かれた県政を行うために県民と語らってきた。すべての職員に引き続き、県民への奉仕を続けようと伝えてください」。最後にペコリと頭を下げた。

(『中日新聞』 2002/07/06)

(14)においては、「しんみりと座る」は文脈から考えると、「その場に座っている25人の部局長が自らのもの悲しい気持ちによって、会場に静かかつ厳粛な雰囲気や漂わせている」という意味解釈ができる。すなわち、「その場にいる人の気持ちによって作られたその場の雰囲気」を表している。「しんみり」のこの特徴については、『新明解国語辞典』(第6版)にも「人の世のはかなさやつらさなどを今更のように感じ、もの悲しい感じになる様子。また、その場の雰囲気がもの悲しい感じになる様子」というように記述されている。しかし、例として挙げられた「する、語り合う」などの動詞は「しみじみ」とも共起できるため、2語の違いがはっきりしない。ここで、一般的に2語と共起しない「座る」から、「しみじみ」は「しんみり」のように「場の雰囲気」を表す機能を持たないことが窺える。さらに、(15)のように、明らかに「場の雰囲気」を含意する「しんみりした空気」のネイティブ判断調査でも、「しんみり」は80%容認できる一方、「しみじみ」は0%であるという結果が出た。

(15) そんなとき、近所の人が発送対象にならないナシを買いに来た。「一(ひと)バケツでいい?」「いや二(ふた)バケツ」。たわいもないやりとりが、しんみり(*しみじみ)した空気を吹き飛ばしてくれた。

(『中日新聞』 2003/11/30)

このように、「しんみり」は静かな、しめやかな雰囲気や悲しい気持ちにより心が沈む雰囲気を表せるのに対して、「しみじみ」はこの特徴を持たない。

6-3. 「感謝する」と共起する「しみじみ」

コーパスには、下の(16)、(17)のように、「感謝する」や「感心する」と共起する「しみじみ」の実例がある。これらの実例を通して「しみじみ」と「しんみり」のもう1つの違いに注目したい。

(16) 「でもね、役者としてはいい時期に自分を見つめ直すチャンスを与えてくださったと、いましみじみ(*しんみり)感謝してるんです。襲名することで、これまでやらなかった新しい役柄まで手にすることができましたから」

(『中日新聞』 2003/07/22)

- (17) 先日、萩原署に大阪市の男性から丁寧なお礼の電話があった。夫婦で馬瀬村へドライブに来たが、村内で車がエンスト。途方に暮れて、駐在所へ歩いて行ったが、所員はパトロール中で不在。留守を預かる妻が現場へ同行し、車を確認したところガス欠と分かり、ガソリンの手配など一切の処理をこなし、夫婦を見送った。「日本にも、まだあんな奥さんがいるんですね。立派ですなあ」と、男性はしみじみ(*しんみり)感心していたとか。

『中日新聞』 1999/07/18)

これまで取り上げた実例を振り返ってみると、「しんみり」と「しみじみ」はほとんど悲哀・寂寥などややマイナスイメージの事柄に用いられる傾向が見られる。しかし、(16)と(17)における「しみじみ」と共起する「感謝する」と「感心する」の2語はプラスイメージの事柄に使うのが一般的である。ネイティブ判断調査の結果によると、この二つの動詞との共起の容認度は、「しみじみ」は80%と90%である一方、「しんみり」は両方とも10%であり、大きな差異が見られた。そして実際に文脈を見てみると、「自分を見つめ直すチャンスを与えてくれたことに感謝する」とか、「日本にもあんな立派な奥さんがいることに感心する」とか、両方とも悲哀・寂寥感を含意しないものである。このような文脈で用いられる動詞とは、「しみじみ」は共起できるのに対し、「しんみり」は共起できない。また、2語とも「喜ぶ」のような直接喜びを表現する動詞とは共起しにくい、「喜び」という表現がある文においては相違がある。(18)を通して検証してみた結果、「しんみり、しみじみ」は2語とも心理動詞「感じる」と共起できるが、「感じる」の対象語「喜び」が前に置かれると、「しみじみと喜びを感じる」は自然な表現である一方、「しんみりと喜びを感じる」は不自然な表現になる。

- (18) 激戦を戦い抜き、一万票の大差をつけた西寺さんは一夜明けたこの日、いつも通り午前六時半に起床し、しみじみ(*しんみり)と喜びを感じたという。

『中日新聞』 2003/04/29)

上記の考察によると、「しみじみ」は「感謝する、感心する」のようなプラスイメージの事柄に用いられる動詞や、「喜び」のような名詞とは共起できるが、「しんみり」は共起できないことが明らかとなった。これらの事例から「しんみり」と「しみじみ」の違いを考えると、以下の結論に至る。「しんみり」は語自体が悲哀・寂寥の意を含意しているため、マイナスイメージの事柄に用いられやすく、プラスイメージの動詞や名詞と共起できない。一方、「しみじみ」は悲哀・寂寥の含意のある文脈には用いられるが、語自体が悲哀・寂寥の意

部 楓

を含意しているわけではないため、プラスイメージの事柄に用いても差し支えない。

7. まとめ

本稿では擬態語「しみり、しみじみ」を例として取り上げ、コーパスを使って共起動詞を中心にコロケーション分析を行った。具体的な内容は以下のようにまとめられる。

1. 2語は形式動詞「する」、「話す、語る」のような発言動詞と共起しやすい点で共通する。
2. 「しみじみ」は心理動詞とは共起しやすいが、「しみり」は心理動詞の中で懐旧感を表すもの、意図性にかかわるものと共起しにくい。
3. 「しみり」は具体的な行為を表す「座る」と共起し、その場にいる人の悲しい気持ちや寂しい気持ちによる静か且つしめやかで、厳粛な場の雰囲気を表すことができる。一方、「しみじみ」はこのような場の雰囲気は表せない。
4. 「しみじみ」は「感謝する、感心する」などプラスイメージの事柄に用いられる動詞とも自然に共起できるのに対し、「しみり」は共起できない。

このように、本稿で呈示したコーパスによるコロケーション分析により、擬態語「しみり、しみじみ」の2語の類似点と相違点を明確にすることができた。これは、共起動詞などの情報をコーパスから数多く見つけ出すことで、日本語学習者にも役に立つことと思われる。

参考文献

- 李 澤熊(2002) 「主体の意図にかかわる副詞(的機能を持つ表現)の意味研究」 名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士学位論文
- 大曾美恵子・滝沢直宏(2003) 「コーパスによる日本語教育の研究—コロケーション及びその誤用を中心に—」 『日本語学』 第22巻 4月臨時増刊号 「コーパス言語学」 pp.234-244 明治書院
- 笈寿雄・田守育啓(1993) 『オノマトピア—擬音・擬態語の楽園』 勁草書房
- 工藤真由美(1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間表現』 ひつじ書房
- 尚学図書編(1981) 『国語大辞典』 第1版 小学館
- 杉村 泰(2005) 「コーパス調査による文法性判断の有効性—「～てならない」を例にして—」 『日本語教育』 114 pp.60-67 日本語教育学会
- 滝沢直宏(2004) 「日本語テキストからコロケーションの抽出」 『日本語学習辞書編纂に向けた電子化コーパス利用によるコロケーション研究』 代表: 大曾美恵子 pp.27-40 平成13年度～15年度:科学研究費補助金基盤研究(B)(2)報告論文集
- 田守育啓他(1999) 『オノマトペ—形態と意味』 くろしお出版
- 新村 出編(1998) 『広辞苑』 第五版 岩波書店
- 飛田良文・浅田秀子編(2002) 『現代擬音語擬態語用法辞典』 東京堂出版
- 山田忠雄他編(2005) 『新明解国語辞典』 第6版 小学館

付録

「しみり、しみじみ」と共起する動詞のアンケート調査の結果

| 動詞 | しみり | しみじみ | 動詞 | しみり | しみじみ |
|-------|-----|------|------|-----|------|
| 語る | 10 | 9 | 愛する | 2 | 4 |
| する | 10 | 9 | 楽しむ | 2 | 3 |
| 懐かしむ | 10 | 9 | 描く | 2 | 2 |
| 話す | 10 | 8 | 述懐する | 2 | 2 |
| 歌う | 10 | 4 | 座る | 2 | 1 |
| 泣く | 10 | 3 | 感心する | 1 | 9 |
| 思う | 9 | 10 | 感謝する | 1 | 8 |
| 言う | 9 | 9 | 分かる | 1 | 5 |
| 飲む | 9 | 6 | 哀れむ | 1 | 4 |
| 眺める | 8 | 7 | 悟る | 1 | 4 |
| 思い出す | 7 | 10 | 喜ぶ | 1 | 2 |
| 考える | 7 | 8 | 諦める | 1 | 0 |
| 聞く | 7 | 6 | 運転する | 1 | 0 |
| 食べる | 7 | 3 | 選ぶ | 1 | 0 |
| 振り返る | 6 | 10 | 続ける | 1 | 0 |
| 感じる | 6 | 9 | 驚く | 0 | 1 |
| 味わう | 6 | 7 | 存在する | 0 | 1 |
| 嘔み締める | 6 | 7 | 走る | 0 | 1 |
| 終わる | 6 | 2 | 勉強する | 0 | 1 |
| 思い返す | 5 | 9 | 会う | 0 | 0 |
| 実感する | 4 | 9 | 飽きる | 0 | 0 |
| 読む | 4 | 5 | 疑う | 0 | 0 |
| 伝わる | 4 | 3 | 怒る | 0 | 0 |
| 染みる | 4 | 3 | 断る | 0 | 0 |
| やる | 4 | 3 | 婚約する | 0 | 0 |
| 書く | 3 | 1 | 憎む | 0 | 0 |
| 笑う | 3 | 1 | 入学する | 0 | 0 |
| 見る | 2 | 5 | 寝る | 0 | 0 |

* 表の数字は被験者10人中、共起すると答えた人の数である。

* 動詞は基本的に「しみり」の多い順に、数の同じものは「しみじみ」の多い順に並べている。なお、「しみり」と「しみじみ」の両方の数が同じである場合、五十音図順に並べている。